

第2回 八戸市生活支援体制整備推進協議会 会議録

日時 平成29年8月28日(月) 14時

場所 はちふくプラザねじょう 5階 研修室

○出席者(7名)

吉田委員、御厨委員、高渕委員、堀内委員、船橋委員、小柳委員、池田委員

○欠席委員(1名)

豊山委員

○事務局

加賀福祉部長兼福祉事務所長、豊川福祉部次長、中里高齢福祉課長、原地域包括支援センター所長、山口主査兼社会福祉士、島田主査兼社会福祉士

開会

山口主査： 本日は、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。次第に入ります前に、資料の確認をお願いいたします。資料は、次第、資料1から資料5まで、他に平成29年度生活支援コーディネーターの研修会の資料でございます。足りない方はいらっしゃいませんでしょうか。

本日出席の委員は7名となっております。欠席は、豊山様でございます。半数以上の出席でございますので、協議会は成立しておりますことをご報告申し上げます。

定刻となりましたので、ただいまより、八戸市生活支援体制整備推進協議会を始めさせていただきます。私は、高齢福祉課の山口と申します。どうぞ、よろしくをお願いいたします。

まず始めに、八戸市生活支援体制整備推進協議会の小柳会長よりご挨拶をお願いいたします。

会長挨拶

小柳会長： それでは、会議に先立ちまして、一言ご挨拶申し上げます。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

さて、本日は8月23日に実施した小中野・白銀2地区の地域住民と八戸学院大学のゼミ学生によるワークショップでのご報告、審議議案では、ワークショップの効果の検証及び継続実施の可否についてご審議いただき、そのほか、池

田委員が参加した生活支援コーディネーターの研修会について情報提供していただきたいと考えております。地域包括ケアシステムの基盤となる地域づくりを進めていくために、委員の皆様のご意見をいただきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

山口主査： それでは、早速、議事に入らせていただきます。進行は小柳会長にお願いいたします。

報告案件 1

小柳会長： 次第に従いまして議事を進めてまいります。次第の2の報告案件、住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について、事務局から説明をお願いします。

島田主査： はい。それでは私からご報告いたします。プレゼンテーション形式でご説明しますので会場前方の画面をご覧ください。お手元にあります資料1をご覧ください。同じものを画面に映しておりますが、今回企画の実施にあたりまして地区の社会福祉協議会の方、八戸市社会福祉協議会の御厨様、さらに八戸学院大学の小柳様にご協力いただきましてありがとうございます。ワークショップは先週の8月23日だったのですが、朝に住民から思いがけない電話が私のところがありました。「ワークショップがあると聞いたんだけど行っていいですか」ということがございました。急ではありましたが断る理由は全くありませんでしたので、「どうぞ」とお答えしました。地域の方が独自に広報もしてくださっていたようです。参加者の方に聞いてみますと、地区の皆が集まる飲食店とか、食堂といったところにポスターを貼ったりして積極的に知らせてくださったということで、住民の方の温かさを感じたところでございました。

スライドの2ページになりますが、開催の目的としましては2つの目的の達成を目指しておりました。1点目は、住民参加で地域の課題について解決策などの検討を行う。2点目は、ワークショップをきっかけに地域の活動に新たな人材を取り込む。こういった目的でございました。企画の概要としましては、日時が平成29年8月23日の13時30分から16時30分まで。会場は八戸ポータルミュージアムはっちシアター2でございまして、参加者は全体で37名。地域の方は29名、学生が8名でした。事前に地域の方が何名くらい参加しそうであるかということで確認をしておりましたが、当初は20数名の予定でございましたが、その後当日の飛び込みもあって少し人数が伸びました。この後、当日の様子を写した写真もご覧いただくのですが、会場に対して十分な人数を確保できた印象であります。むしろこれ以上だとシアター2では収まりきらなかったのではないかと思うほどの盛況でございました。主催は八戸市でございまして、開催協力は八戸学院大学、八戸市社会福祉協議会になっております。

当日のプログラムですけれども、13時30分にスタートいたしまして、当課の課長よりご挨拶申し上げました。13時32分から行政説明等ということで、ワークショップ、グループワークで話し合うための材料をお伝えしました。1つは、八戸市の実態、特に人口のこととか、昨年度地域住民の方に実施した、生活の実態に関する調査についてでありました。内容は、健康度の他に、地域活動に参加することについてどのような態度であるのかというようなものも入っていました。これらについて材料になりそうな部分をご説明いたしました。そしてもう1つの説明は、小柳会長にお願いしたところですが、平成28年度調査、前回協議会でも皆様にご報告した内容でございます。特に高齢者特別バス乗車証利用者の方の実態についてご説明申し上げました。

そして14時からワークショップ、実際には予定より10分くらい遅れ込んで14時10分くらいからスタートでございまして、16時30分には閉会という流れでした。

当日はグループをどう分けたかという点ですが、参加者が会場に入る際、名簿にお名前を記載していただくと同時にグループが決まるということにしておりまして、全部で5チームに分けました。白銀A、白銀B、小中野A、小中野B、混合というかたちでございます。それぞれに住民の方と学生の方が必ずいるという状況でございました。

次にワークショップでの成果についてでございます。つまり、課題について具体的にどのような提案があったのかというところでございますけれども、ここについては学生さんの協力を得てまとめているところでしたので、詳細につきましては次回の協議会でご説明したいと考えております。例を挙げますと、周知を図るにしてもターゲットを絞った方が効果的だという考えから、町内で行われるお祭りでアピールしてはどうかという意見であったり、サービスを利用する側に声を上げてもらうことも必要ではないかという意見もございました。これは利用者サイドから考えていくという意見でした。あと新聞報道もされておりましたが、地域のパソコン教室をしてはどうか、さらに同じ年代でパソコンを得意としている方から教えてもらった方が聞きやすいのではないかと、ただパソコンを学ぶだけではなくて地域の世代を超えた交流というニュアンスも加えてみてはどうですか、といったアイディアもございました。これらにつきましては、本日の審議案件になっておりますワークショップの継続実施について可となりましたら、次回のワークショップでの意見と併せて皆様にご報告し審議していただければと考えております。

そして当日の様子ということになりますますが写真を画面に映しますのでご覧ください。実際に会場に足を運んでいただいた委員の方もいらっしゃいましたのでお分かりかもしれませんが、時系列で写真をご覧ください。

(1 枚目) 受け付けのところから会場内を撮ったところです。入り口で名簿に書いていただいて、会場の席についていただくという流れです。

(2 枚目) これも開始前の様子ですが、手前のところに学生さんが写っています。その周りに地域の方がおられます。

(3 枚目) これは開会したところで、当課の山口が司会をしております。

(4 枚目) 次に当課の課長からご挨拶申し上げました。

(5 枚目) その様子でございます。

(6 枚目) 私が市内の状況について説明した後、小柳会長から平成28年度調査の内容についてお話いただいているところです。

(7 枚目) これは各グループでの作業が行われる前にアイスブレイクを行っているところでございます。14時10分くらいです。ここに写っておられるのは八戸学院大学短期大学部の三岳様です。社会福祉士の資格をお持ちで、かつ福祉のレクリエーションにも長けておられるということもあったり、介護福祉士の国家試験対策に関するテキストを出しているという方です。アイスブレイクに適任であろうということでお願いしたところでございます。

(8 枚目) これがアイスブレイクをしているところです。これはトランプを配って番号の順に自分の名前を言いながら何か付加情報を言うものでございます。

(9 枚目) これはその途中の様子です。

(10 枚目) このあたりからだんだん参加者の方の声が出てくるようになってきました。

(11 枚目) 実はアイスブレイクは2つ行っておりまして、廃棄する紙を各グループに配布し、どこのグループが一番高くタワーを作れるかやってみましょうというものです。共同作業をきっかけに交流してもらうようなアイスブレイクでした。これは相当盛り上がりました。

(12 枚目) これは小中野のグループで地域の方が「やったぞ」という顔をしておられるところでございます。このあと非常に打ち解けてお話されておりました。

(13 枚目) ここからは実際の作業をしている様子ですが、テーブルにある緑色の模造紙に、皆さんのアイデアを書いた付箋を貼っていく。最後にアイデアをグルーピングするというものでございます。

(14 枚目) 各グループからの発表という場面です。特に作意はなかったのですが、5グループ全て学生さんが発表してくださいました。聞いておりますと、スムーズに分かりやすく話してくれたと思っております。

(15 枚目) これも発表の様子です。

(16 枚目) 次のグループです。

(17 枚目) 同じグループですがここは2人の学生が分担して発表しておりました。

(18 枚目) これは3年生ですね。福祉系の就職先を探している人もいれば、教員になりたいという思いの人もいるという状況です。

(19 枚目～23 枚目) 全て発表の様子です。

(24 枚目) 最後、当課の課長から重ねて御礼を申し上げたところです。

以上が当日の様子でございます。

さて、資料に戻っていただきまして、資料2は事前に委員の皆様にお送りしていたワークショップの実施要項ですので説明は省かせていただきます。

次に資料3をご覧ください。参加した方にアンケートをしております。参加してどのような印象を持ったのかということと、このような企画は続けた方が良いと思えるかどうかといったことについて尋ねております。

2ページをご覧ください。回答状況としましては、参加者のうち2名からは回答が得られませんでした。ほとんどの方にお答えいただいたところがございます。回答の詳細は資料4にございますが、これについてはあとでご覧いただければと思います。ここでは重要と思える点についてご説明いたします。

まずは住民の方がどのように思われたのかということについてです。

回答者の属性としましては白銀地区が14名、小中野地区15名。年齢層としましては60歳代と70歳代に重みがある形でございます。そして性別については男性5名。女性23名ということでございます。もしかすればこれは地域の活動の課題を考える上では重要な情報なのかもしれませんが、ここでは省かせていただきます。さらに地域の活動で最も長く担っているものについても尋ねておりますが、長い人で40年くらい同じことを続けておられるという話がある一方で、地区の活動、例えば地区社会福祉協議会、町内会、民生委員など、6か月くらいという方もいらっしゃいました。

次に参加して良かったと思えたかどうかについてですが、良かったというのが全体の8割、なんともいえないというのが1割でして、地区による差もあまり無かったところがございます。

継続すべきかについては、地区によって差がありました。全体としましては6割の方が継続すべきとお答えになっていますが、白銀地区に限ってみれば半分程度で、小中野地区は8割です。この違いの原因を探るようなアンケート項目はございませんでしたので正確なところは不明ですが、グループワークのときの地域の方からの声を参考にしますと、おそらく白銀地区の方はワークショップで具体的に何かが決まるというような即効性を求めていたように思われます。一般の参加者の方には、ワークショップでの意見を当協議会に諮る、公で

議論するといふところの説明をいたしませんでしたので、そのことが影響しているかもしれません。今後も実施する場合の改善点の1つということもできるのではないかと考えております。

続いて改善点ということで自由にコメントをしていただいておりますが、いくつか挙げさせていただきました。「もっと平易な内容でも良い」「噛み砕いた方がよい」という意見がいくつかございました。あと「話し合う課題が多かった」「グループの司会を決めて欲しい」という意見もありました。司会については各グループの自主性を尊重するために委ねることにしたのですが、どうしても依存的な反応を示す方もいらっしゃったということだと思います。あとは「たくさんあって書ききれない」という厳しい意見もございました。

そして学生が参加したことについてどう思ったかも尋ねております。これについてはポジティブな意見しかなかったように見受けられます。例えば「社会人と学生の対話が必要だと思った」「学生目線の意見が聞けて良かった」「住民にとっても新鮮であった」「学生にとっての学びになったと思う」「未来を感じた」という意見がありました。この「未来を感じた」という単語は何人かの方がお書きになっておりました。あと「もっと学生に来て欲しい」「とても良い取組である」という意見もございました。

その他ということでは思うところがあれば自由に記載していただいたのですが、「論点を明確にできなかった」という意見がありまして、グループで話を深め切れなかったという意味だと思われまふ。また「久しぶりに頭を使った」という意見もありまして、骨のある企画だったという意味だと受け止めております。「新しい提案までいけなかった」というような意見もありまして、これはワークショップの時間やテーマの絞り込みが必要という意味だと思われまふ。最後に企画者の方でも出ていた話なのですが「30歳代から40歳代の参加が必要」という声もございました。

次に学生さんに実施したアンケートでございます。参加した感想としては、「参加してよかった」と答えたのが7名中6名、なんともいえないというのが1名、正直にお答えいただいたと思ひまふ。

そしてワークショップを継続すべきかというところで、継続すべきが8割、継続の必要なしとの回答が1名ありました。この継続の必要なしとお答えになった方のコメントを見てみると、「ワークショップで地域が変わっていきけるか分からない」と書かれておりました。ここは我々の説明不足もあろうかと思ひまふ。

改善点を自由に記載していただいておりますが、内容を見まふと学生自身が思ひたこともあれば、各グループで地域の方が話していた内容を記載したのものもあるようです。まずは「休憩時間を設けて欲しかった」というもので、

これは各グループに自由に休憩を取っても良いとお伝えしておりましたが、促しがないとなかなか難しいという状況があったのかなと思います。あと「資料の字が小さい」という意見については、当日の資料の一部は印刷にかかる時間の都合もありまして、縮小印刷をかけたということへの反応だと思われます。「途中でグループを移動するなどもっと多くの人の声を聞きたかった」というかなり前向きな意見もございました。

次に、地域の方と接してどのように思ったかを尋ねております。これについてはポジティブな意見のみでした。「具体的にいろいろ聞いて良かった」「視野を広げることにつながったんじゃないか」「地域で活動している方の現実的な苦勞を感じた」「聞きづらいことも教えてくれて嬉しかった」「もっと話をしたい」ということもございました。

さらに、地域活動への協力を求められたらどう思うかを尋ねました。例えば、町内会、民生委員、地区社協などが行う見守り活動と一緒に来てくれないか、お知らせをまわすのに協力してくれないか、といったことがあればどう思うかという聞き方をしております。これも非常に前向きでありまして、6名の方が「協力したい、又は協力する方向で考えたい」という意見もございました。無回答は1名でございました。学生さんの中には市外からお越しの方もいらっしゃいますので、八戸市内で活動するのは難しいという事情もあろうかと思えます。

その他自由にコメントをしてもらっております。「貴重な体験をすることができた」という意見もございました。また、コメントを見てはっとしたのですが「実際に支援を必要とする高齢者との交流があればよい」という意見もありました。

アンケート全体をまとめますと、参加の是非については全体の8割以上の方が参加してよい企画であったと評価しております。いろいろ改善点や反省点はありませんでしたが、基本的には良かったということでございます。継続の是非については地区によって差が出ております。全体の過半数から継続した方が良いとお答えいただいております。

以上の詳細につきましては資料4に全て掲載しておりますので、あとでご覧いただければと思っております。

私からは以上でございます。

小柳会長： ありがとうございます。ただいまの説明に対するご意見やご質問などがあればお願いします。

堀内委員： 今回ワークショップに参加されたメンバーの方は全員地域での福祉活動などに従事されている方なののでしょうか。福祉とかに関わったことが無い方もいらっしゃったのかお聞きしたいと思います。

島田主査： お答えいたします。今回は地区の社会福祉協議会にお声掛けをして実施したという経緯がございますので大抵は地域のサロン活動とか、お一人暮らしの方の見守りといったことに何かしら協力した方だと思われれます。

中里課長： 地区社会福祉協議会の方が中心だと思うのですが、一方で全く活動をしていないという方もいらっしゃいました。

小柳会長： ほかにも何かございませんでしょうか。

私からも一言お話させていただきますと、ワークショップでは昨年度、高齢者特別バス乗車証の交付を受けた方々に向けて実施された調査の結果をご報告させていただいたあとに論点の説明からグループワークの運営までを行わせていただきました。その当事者としての意見となりますが、終始とてもいい雰囲気、グループワークでは活発に意見が交わされていたように思いました。今回の試みとして学生を加えて行ったわけですが、先ほど写真でも見ていただいたように福祉レクリエーションの専門家の三岳先生がグループワーク前のアイスブレイクをされたということもあって皆さんの緊張がほぐれ、後の運営に効果的に働いたのではないかと考えておりました。学生からは先ほどのアンケート調査にもありましたが、言葉として聞かれたこととして、「自分が想像していた以上に地域のご年配の方々が様々なことを不便に感じておられた」「学習を進めて自分にできることを考えていきたい」という感想がありました。こういった話を聞いておりますと大学で教えている立場といたしましては教育効果も感じずにはられませんでした。このワークショップは世代間交流のいいきっかけにもなったように考えております。ただし様々なケースを把握していかなければならないことや継続的に行っていくことが重要ではないかとも考えております。

先ほど船橋委員からお話いただきましたが、当日ご足労いただいていた委員が他にもおられますので、吉田委員からコメントをいただいてもよろしいでしょうか。

吉田委員： 今回の対象地域である白銀で仕事をさせていただいていますので、実際に困っている場面に出くわすことが結構あります。色々な意見があるということを感じながら見ておりました。学生さんが入ったということは、若い方が入って良かったなど。アンケートにもありましたが未来が明るいなど、もっと参加していただければと感じておりました。ありがとうございました。

小柳会長： ありがとうございました。

それでは堀内委員もお越しになっていたと思いますが、一言コメントをいただいてもよろしいでしょうか。

堀内委員： 今回ワークショップに参加されている地域の住民の方というのはサービスを提供する側の方が多いと思うのですが、実際にサービスを受ける側の意見が一

番必要ではないかと思いました。

小柳会長： はい、ありがとうございました。

その他に特にご意見等がなければ次に進めさせていただきます。

審議案件 1

小柳会長： それでは次第の 3 の審議案件に入らせていただきます。住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの効果の検証及び継続実施の可否等について、事務局よりご説明をお願いします。

島田主査： 資料 5 をご覧ください。住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの効果の検証及び継続実施の可否等についての論点整理というもので、4 つの論点を挙げさせていただきました。

論点 1 はワークショップの効果でございます、今回の企画が目的達成することにつながったかということについての検証をお願いしたいと考えているところでございます。その目的というのは先ほど申し上げた 2 点でございます。

そして、論点 2 はワークショップの改善点についてでございます。私の説明でも改善点について申し上げましたが、アンケートの結果からも言えることがありと思われまますので、それらを参考にご検討いただければと思っております。

論点 3 はワークショップへの参加を呼びかける対象についてでございます。今回は試行的な取組ということで地区社会福祉協議会及び八戸学院大学小柳ゼミの所属学生に参加をお願いしたところでございます。ただし、今後継続実施する場合には、地域からの学生に対する期待が大きいものの、小柳ゼミの生徒に動員をかけるだけでは対応が難しいということもございます。毎回、地区の方にプラスして新しい人が参加できるようにということを考えておりますので、その方法について検討をお願いしたいと思っております。

事務局案としましては地区社協を中核としながら学生やその他の有志に呼びかけて徐々に規模を拡大する手法を考えております。最初から大規模ですと企画者側も対応しきれない事情もございます。少しずつ増やしていきたいところです。具体策としましては以下のように考えておりました、全て実施するというのではなくあくまでアイデアですが、まず八戸学院大学の学生さんをもう少し動員していく方向を考えておりました、これは小柳会長や今回のワークショップにご協力いただいた同大学短期大学部の三岳様にもご相談しながら、参加意思がある生徒を見つけていくということをしていきたいと考えております。2 つ目は、平成 28 年度調査で生活支援サービス事業者の認知率等の調査をしておりますが、その対象となった事業者に呼びかけるというのはどうかと考えております。例えば今回のワークショップでは課題 1 としてサービスの認知率向上の話題を取り扱ったわけですが、ワークショップの参加をきっかけに実

態を知っていただいたり、今後も議論に加わっていただけるようにしていくというのはどうであろうかと考えております。3つ目は、高齢者生活支援サポーターへの呼びかけでございます、実は高齢福祉課が平成21年から27年度まで養成をしたボランティア人材が143名おられます。養成の趣旨としては高齢者のちょっとした手助けをしてもらうというボランティアでございまして、具体的にはごみ出しとか、電球の交換とか、ストーブの給油であるとかというものでございます。活動実績がとて多いというわけではございませんが、意識が高い人材であると思われまので呼びかけてみてはどうかと思っております。ただ登録者143名と言いましても実際に活動に携わっている方で、かつワークショップへの参加を了解する方というのは一部に限られるであろうと考えております。そして4つめは八戸市社会福祉協議会に登録しているボランティアの方とか、市民活動の団体として「わいぐ」に登録しているところのうち、生活支援体制整備事業になじみそうな方にお声掛けしていくということが必要ではないかと考えております。以上は案でございまして、ほかにも声を掛けた方が良いところがあると思っております。例えば今回地区社会福祉協議会に参加を呼びかけに行ったときに、民生委員さんにも声を掛けてもらいたいというご意見も頂戴しておりました。

論点4につきましてはワークショップの継続実施の可否及び実施時期についてでございます。事務局案では年度内に1回から2回、できれば2回実施したいと考えておまして、時期については年内の雪が降る前に1回、年が明けてからもう1回、というイメージをしております。この件についてもご検討いただければと思います。

以上でございます。

小柳会長： ありがとうございます。論点の1から4までありますが、それぞれについて委員の皆様からご意見ありますでしょうか。

高渕委員： 論点1のワークショップの効果についてですけれども、当日見に行きたかったのですが残念ながら地域ケアの個別会議が重なってしまいまして行けなかったのですけれども、効果にこだわるというよりも、資料を見させていただいて、やった意味というのはあった、良かったのではないかと考えております。当日の話し合いの内容についてはまだまとまりきっていないということなんですけれども、やること自体に意義があったので、あとは参集範囲とかいろいろ問題点はあろうかと思うのですが、やったこと自体は大変良かったなと感じています。

小柳会長： ありがとうございます。

ほかに委員の皆様からご意見はございませんでしょうか。

御厨委員： 私も参加してみて、学生の方と地域住民の方がお互いに話し合える場というもの設定されたことは大変良かったと思っております。社会福祉協議会とし

でも小学校、中学校、高校生あたりまでは思いやりをはぐくむための授業などを展開しているのですが、なかなか大学生までは手が届いていない部分でございました。正直なところ。今回実施してみて、地域の方が地元のことを見つめなおすきっかけにもなったと思いますし、人材育成にもつながるような気がしますので、是非ワークショップは次回も継続して開催できればと考えています。以上です。

小柳会長： 参加された上でのコメントありがとうございます。

ほかにもございませんでしょうか。

それでは論点1から4について承認するというところでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

小柳会長： それでは異議が無いようですので事務局の実施案を承認することとし、案のとおり進めるということをお願いしたいと思います。

その他

小柳会長： 続きましてその他についてですが、平成29年度生活支援コーディネーターの研修会に参加してきた池田委員より情報提供いただきます。

池田委員： 失礼します、池田です。平成29年度の生活支援コーディネーター情報交換会に参加させていただきました。平成29年8月9日の水曜日にアスパムの会場で行われました。私、業務の都合があつて午後からの参加というかたちになりました。皆さんのお手元の資料を見ていただきますと、内容に関してはさわやか福祉財団の堀田会長が司会をなさって、そのなかで意見交換会を交えながら進めておりました。日程のところを見ていただきますとステップ1、ステップ2、ステップ3とあるんですけども、その内容に沿った形で話をされていました。

ステップ1は第1層と第2層の体制づくりというところに関してのところですが、今の青森県内を見たときにどれくらい整備されているかということ、その市町村もだいたい第1層については整備されているという形になっております。第2層に関しては五所川原市が少し進んでいるようなイメージで、そのほかにも1、2か所進んでいるところがある状態ということを確認しております。八戸市の近くで言うと十和田市が第2層に向けてすすめていくというお話をお聞きしました。

続いてステップ2になります。今回、八戸市でワークショップを開催しましたがそのような手法についても情報提供がありました。フォーラムの開催とか外出支援、ワークショップからニーズを探っていくってその中でいろいろな可能性を見出して地域に生かしていくというのが必要なのかなといった話がありました。そのときには住民の代表者というのがキーワードになるということです。民生委員さん、町内会長さんといった方々ですね。今回、ワークショップ

を開催したのですが、今後はもっと小規模で地域に密着した形のものも必要ではないかといった話もありました。

続いてステップ3ですが、これから地域を支えていく上で、人、物、金、情報、の4つが大事ではないかという話でした。お金の面に関してなんですが、自主性が損なわれる可能性もあるのでどこまで関与し、どこは関与すべきではないのかを見極めていく難しさもあるとの話題もありました。補助金の活用などもあるのではないかと話もありましたが、それに見合った活動なのかどうかについてこれから検討が必要ではないかというところでした。

最後に、包括的支援事業に関わる事業実施の考え方についても説明がありました。そのあたりは県の高齢福祉保険課の方からお話がありました。

概ねこのようなことでしたが、皆様からご質問はありますか。

小柳会長： 皆様から何かございませんでしょうか。

池田委員： 今、どこの市町村もまだ第1層の準備段階という印象も受けておりました。来年の4月をめがけて第1層が確立していかなくは第2層が見えてこないだろうという現状を確認してきております。正直言って青森県内で第1層もできていない、準備もしていないという市町村もありましたので、そういった中で八戸市はワークショップを実施したというのは大変良いことだったのではないかと感じております。よろしいでしょうか。

小柳会長： ありがとうございます。第2層のことも考えていかななくてはならないですね。

池田委員： はい。

小柳会長： ただいまの情報提供に対するご意見やご質問があればお願いします。特にご意見等が無ければ本日予定していた案件は以上ですが、ほかに皆様から何かあればお願いします。

高瀬委員： 先ほど堀内委員がお話してくださった部分なんですけども、参加者の方々、市としては小中野と白銀の地区社会福祉協議会さんをお願いした形とありました。地区社協の中には民生委員が入っている場合もあったようですね。実際にはいろいろな支援が公的に整備されていますから、それが周知徹底されるかどうかというのが注力すべきところと考えております。実際に支援の対象になるのはワークショップにいらっしゃった方々ではないと思いますので、いかにして当事者に情報を届けるか、浸透していくか、認知度を高めていくかだろうと思います。そして、当事者がどのような要望や意見をお持ちかというのをたたき台にしてワークショップで具体的にしていくという方法もあるのではないかと感じました。

小柳会長： ありがとうございます。

この点について何か事務局からありますか。

中里課長： ワークショップでは認知度の低さについて小柳会長からお話いただきました。

アンケートの対象者というのはバスをご利用の比較的元気な方でしたので、それまで配食とか買い物支援を必要としないできた方です。もう一方のアンケートは施設に入っているけれど比較的元気な方にとっていますが、この方々も施設にいれば食事が出ますし、いろいろなケアをする方が身の回りにいらっしゃると思います。そういった方々へのアンケートですので生活支援サービスの認知度が低いという結果が出ております。

ただ、もう少し手厚いサービスを必要とする方がサービスを使えていないかというところについては考えております。担当のケアマネジャーがいたり、在宅介護支援センター、地域包括支援センター、サブセンターが支援にあたっておりますので、必要なサービスが周知されていると理解しております。

今回のワークショップで出た意見の中で、サービスが必要ではない方も知るべきである、知ることによって地域全体で高齢者を支えていく、といったものがありました。会長もおっしゃっていましたが対象者だけに周知していればいいということではなく、それ以外の方、例えば家族、お子さんへの教育ということも考えられるでしょう。サービスを周知して社会全体でサービスを理解するというようにしていかなければならないと認識しております。当課としましても対策を進めていきたいと考えておりました。

小柳会長： ありがとうございます。

そうですね、介護予防の観点でありますとか、住みなれた地域での生活継続の観点からも、現状サービスを必要としない方にも事前に住んでいる地域の利用可能な資源を知っておくことが備えにつながるという話であったと思われました。

ほかに何かございますでしょうか。

池田委員： 先ほどの補足を。

小柳会長： どうぞ、お願いします。

池田委員： さわやか福祉財団の堀田さんから言われたのですが、依頼があれば八戸市に出向いて住民対象の講演会にも対応可能とのことでした。機会があればご検討いただければと思いました。よろしく願いいたします。

堀内委員： よろしいでしょうか。

小柳会長： 堀内委員お願いします。

堀内委員： 実際にシルバー人材センターにお問い合わせいただくお客様の中には、センターだけで対応できない部分もありますが、そういったときにどこへ連絡をすればいいのかというのを聞かれることがあります。社会資源について周知されているところもあれば、例えば要介護認定をどうやって受けるのか、そもそも要介護認定とは何かということもよくお分かりでない方もいらっしゃるというところも感じるところです。そういったときには地域包括支援センターさんにご相談

談してはどうかとお伝えしています。そのような状況にある方もいらっしゃるということで周知については考えていく必要があると思っています。どうやって市民一般に周知しているのかは存じ上げませんが、インターネットというのは70歳代以上の方にはあまり馴染みが無いと思われます。何が一番の情報源かというやはり紙媒体だと思います。コストはかかりますけども。当社では多少コストをかけてもチラシを配るといったことは、割とこまめにしております。実際に利用するかどうかという利用率は高くありませんが、周知率ということで高くなるというのは、そのような活動が功を奏しているのかなと思います。

小柳会長： 事務局からお願いします。

中里課長： ホームページとか広報でお知らせしておりますけども、おっしゃるとおり見ないという方もおられると思います。それ以外に民生委員の方々に地域包括支援センター等が説明をしたり、町内会の会長さんからの要請があれば伺って説明したり、回覧板を活用したり、さらに市が発行している健康カレンダーに情報を載せております。そういったところで周知はしているのですけれども。

堀内委員： 回覧板というのは町内会に加入していない方のところには届かないですよね。業務で接する高齢の方々のお話をお聞きすると、町内会に入っていないとか町内会費は払っていないという方が結構いらっしゃるという印象を持っておりまして、届かない情報もあるかもしれませんね。

中里課長： ケアパスという認知症の方がどう対応したら良いか、早期にケアパスを見て行動できるように関連する医療機関などが掲載されているものがあります。それを今回はスーパーや銀行、商業施設等、様々なところに置いているのですけれども、そういった形で周知を図っていければと思っています。また、委員の皆様のお知恵もお借りしながら進めていきたいと思っています。

堀内委員： 病院でお医者さんや看護師さんからご本人にお話していただくというのも手ではないかなと思います。実際、チラシを見ない方もいらっしゃいますので口頭でお話いただくというのも手ではないかなと思います。

中里課長： 地域で言えば民生委員さんが担当のところを見守りしていただいているのですけれども、民生委員さんだけではなく地域全体で対応できる体制ができていければと思っています。いずれにしましても委員の皆様からお話が合った点については検討をしていきたいと思っています。

島田主査： 課長から申し上げましたとおりですが、堀内委員のご意見を伺いまして、周知というのは利用しうる方々への周知と、利用しうる方々に関わりうるところへの周知も考えないといけない。例えば、当課に地域包括支援センターという部署が入っておりまして高齢者虐待に関する相談を受け付けております。高齢者虐待に関する相談窓口は広く周知しておりますが、在宅介護支援センターと

いった一定の施設にも別に周知を行っております。これはインフォーマルサービスについても同じようなことが言えて、もしかすればインフォーマルサービスから公的なサービスにつながる方もいらっしゃるかもしれない。本当は介護認定を受けて公的なサービスを利用した方がよさそうでも、ご本人が社会資源を知らないので、ひとまずシルバー人材センターに連絡し、「手伝いに来てくれないか」と依頼することがあるかもしれません。よくよく話を聞いていくと本格的なサービスが必要なことが分かってくる。一定の施設にも案内はしているといっても、もう少し広げて考える必要があると感じたところです。平成28年度調査ではシルバー人材センターさんの認知率が高いという結果が出ておりますので、そのノウハウを生かすことができればと思っております。今回のワークショップで周知についても検討をしております、「フェイス・トゥ・フェイスで伝えるべき」といった意見もございました。一担当としては「CMを放送しては」といったマス広告の話題がでると想像していたのですが、そうではなくて直接会って伝えた方がいいという意見が多かったのです。これらの意見につきましては次回のワークショップの内容とあわせてまとめ、委員の皆様にご報告できると思います。さらに当市が行っている周知についても併記することで、改善点や新たな提案についてご審議いただけるのではないかと考えております。そしてワークショップに参加した方に対しては、当協議会を経て具体的にになったものをフィードバックして、次回のワークショップへの参加動機につなげていきたいと考えております。

小柳会長： ありがとうございます。

現実に即した形で事業を進めていくということが重要なのだと思われませんが、1点、全国的な動向ですがインターネットの普及についてはかなり進んでおりまして、高齢の方も含めて上昇しております。若い方に比べれば低いのですが。そのあたりのデータは総務省が毎年実施している情報通信白書に記載が見られます。また、地域の取組として、例えば岩手県のお元気発信という取組など様々なICTを活用した高齢者の見守りやサポート、こういったものを住民も取り込みながら、地域包括支援センター、自治体と協力しつつ進めているものが見受けられますし、一般的な知名度はさほどでもないかもしれませんがシニアネットという社会資源がございます。インターネット等を使えるご高齢の方が、使えないご高齢の方に教える教室の様なものなんですけども、同世代の方に教わるということが効果的に働いているという報告が散見されております。例えば先日のワークショップの中でも、インターネットを閲覧できる媒体をお持ちで無い方が多いかもしれないが、使えるスペースを用意することによって、そこで何らかの利用であるとか情報収集の方法を学ぶとか、そのような案も出ていました。それらについては現実に即する形でその地域で進めていかなければい

けないとは思いますが、考えておく必要はあることだと思っております。

ほかに、ご意見ございませんでしょうか。特に無いようですのでこれで議事を終了させていただきます。進行を事務局に戻します。

閉会

山口主査： ありがとうございます。次回の開催は11月13日の予定で調整中ですので、後日ご連絡いたします。

高瀬委員： その日は都合がつかないので考慮していただければ。

山口主査： 承知しました。他にもスケジュールの都合が悪くなった場合にはお知らせいただければと思います。

それでは第2回八戸市生活支援体制整備推進協議会を終了いたします。ありがとうございました。